

意欲的に伝え合い、学びを深める児童の育成

十日町市立下条小学校

1 研究主題

「意欲的に伝え合い、学びを深める児童の育成」

2 研究主題設定の理由

日々の各教科の授業において、ペアやグループによる話し合いを多く取り入れた。また、週1回の「ペアトーキング」と様々な活動場面における感想発表を実施した。それらにより、話したり聞いたりすることを楽しいと感じている児童や、意欲をもって自分の考えを進んで話そうとする児童が多くなった。

授業研究を通し、「書く」「話す」「聞く」活動をつなげ、自分の考えを確実にもってから、話したり聞いたりすることで、伝え合いを意欲的に取り組めた。

しかし、相手の考えを聞く力はまだ十分ではなく、伝え合いを通して自分の考えをより深めることには至っていない。

そこで、「話したい」「聞きたい」という気持ちを大事にしながら、「学びを深めた姿」を具体化し、それに近づく手だてを講じていく。

3 学習指導改善調査事業との関連

学習指導改善調査の結果から、以下のような力を育てていく必要性が明らかになった。

- ・資料から必要な情報を見付け、それを基に自分の考えを記述すること
- ・問題解決の過程や理由を適切な言葉を用いて説明すること

4 目指す児童の姿

低学年部	自分の考えをはっきり話し、大事なことを落とさず聞き、他の考えを理解する子
中学年部	自分の考えを分かりやすく話し、自他の考えの違いに注意して聞き、 自分の考えを再考し、表す子
高学年部	自分の考えを明確にして話し、相手の意図をとらえながら聞き、 自分の考えを再考し、分かりやすく表す子

5 研究内容と方法

(1) ペアやグループ、学級全体による「伝え合い」の活動を意図的に取り入れ、考えを深める授業を日常的に展開する。

「話したい（意見を言いたい）」「聞きたい」「質問したい」「疑問を解決させたい」などの意欲を高める課題を設定し、できたことや分かったことを認め、「分かる」「できる」喜びを感じることで授業を構想する。

(2) 算数を研究教科とし、授業研究を行う。各学期に重点単元を設定し、学年部の目指す姿を達成するための手だてを工夫し、実践する。

手だてとして、「話し合い活動（伝え合いの方法や場、形態）」「考えを書く場や方法（ノート指導も含める）」などを提案する。そして、そこにおける教師の指導や支援の仕方を協議し、検証していく。

6 学習指導を支える学力向上の取組

(1)「話すこと・聞くこと評価シート」の活用

各学年部の目指す姿の達成のために設定した技能評価項目や規準に基づき、指導する。年間2回、意欲と技能について評価し、変容をみとり、指導に活かす。

(2)ペアトーキングの継続

毎週1回、月曜日に2人組になり、教師や児童が考えたテーマについて、互いに話をする。各学年部で設定した時間いっぱい話すことを目標とする。また、指名された児童が、全体に、友達から聞いた話を再現し、聞く力を高める。

(3)Web問題の活用

過去問題を活用して復習し、理解を深めた上で診断問題に取り組む。診断問題結果から未定着な問題を授業で取り上げ、定着を図る。

(4)カードを活用した音読・家庭学習の継続

各学年でカードを作成し、年間を通し、音読と家庭学習に取り組ませる。

7 公開した授業実践

学年	単元名	成果
1	たすのかな ひくのかな	<ul style="list-style-type: none">・児童のかいた図を、実物投影機を用いて、そのまま見せた。紹介された児童は喜びを感じ、図に表すことにさらに意欲をもった。・○や□を囲んだり、矢印を用いたりして、増えたり減ったりした場面を分かりやすく表す児童が増えた。・図に表すことで、演算決定を正確にできるようになった。
2	たし算の ひっ算	<ul style="list-style-type: none">・前時に考えを表させておき、本時では、考えについての話し合い活動から始める展開の実施により、話し合い活動を完結させ、次の課題について考えを表すところまで展開できた。・図のよさを見付ける活動を繰り返し、分かりやすい図の追体験による共有化を図り、図をかく活動を重ねることで、問題場面を的確な図に表せるようになった。
3	わり算	<ul style="list-style-type: none">・半具体物の操作により、多くの児童が、問題場面について説明できた。・自分の考えの説明を、ミニホワイトボードに図や言葉をかきながら行うことで、考えの過程を分かりやすく説明できた。・振り返りは、児童の考えや理解度の把握に有効であった。
4	小数	<ul style="list-style-type: none">・考えがまとまらない児童の発言から話し合うことで、グループの誰もが発言する話し合い活動を展開できた。また、この活動を繰り返していくうちに、分からないことを恥ずかしくがらずに話せるようになった。・ホワイトボードを用いて、話し合い活動をした。各自がペンを持ち、友達のかいた図に、言葉や図をかき加えながら説明することを通し、友達と自分の考えをつないで話そうとする態度が身に付いた。
5	分数のたし算 とひき算	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えが十分にもてなかつたり不安を感じたりしている児童から話し合うことを重ねた。「分からない」と意思表示したり、「ここまでは分かったが…」と自分の状況を把握したりできるようになってきた。・「解決方法を考える(個→小グループ→全体)」→「確認問題の解決(個)」という展開を繰り返した。活動の見通しをもち、安心して授業に臨めた。

6	いろいろな形の面積	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を重ねたことで、納得できるまで「聞き返す」、伝わるように分かりやすく「話す」、理解しようと真剣に「聞く」ことができるようになってきた。 ・「分かったこと」「できるようになったこと」の記述の継続は、児童に「自分の力で解けるようになった」と自信をもたせることができた。
---	-----------	--

8 本年度の成果と次年度への課題

(1)授業研究

①成果

- ・ 「解決方法を言葉や図で表す（個）→ペアやグループで話し合う→全体で話し合う→別の類似問題を解く（個）」という「かく活動」を取り入れた「話し合い活動」は、考えを深めたり確かにしたりする上で効果的であった。
「類似問題の解決」は、「分かる」から「できる」ために価値があった。
- ・ 自分の考えに不安を感じる児童や考えをもてない児童から話し始める「つまずきから始める話し合い活動」は、有効であった。
分からない児童が話すことで、聞き手は相手がどこまで分かっているかを理解しようとし、分からない点から説明する。そして、他の聞き手が付け足していくことで、つまずいている児童の理解が図られ、説明した児童の理解もより確かなものになった。
- ・ 「学習課題」に呼応した視点のある「振り返り」を実施し、児童の「学習課題」達成やそれに向けた努力について具体的に称賛の評価を与えた結果、児童に「分かる」「できる」喜びを感じさせられた。

②課題

- ・ 自分の考えをもって話し合わせたい。そのために、自分の考えを表す方法（絵や図、言葉、式など）を教え、表させ、できたことを認め、身に付けさせていく。既習事項が着実に増えるように、低学年から段階を追って繰り返し指導していく。
- ・ 「何について」「どのように」「どこまで」話し合うのかについて明確に提示したり、適時にゆさぶり発問や補助発問をしたり、ヒントカードを見せたり、ペアやグループによる相談場面を取り入れたりするなどの指導や支援の力をより高める。
- ・ ノートやホワイトボード、画用紙などの特徴やよさを活かし、自分の考えや話し合った内容を表させる。

(2)学習指導を支える学力向上の取組

①成果

- ・ 「話すこと・聞くこと評価シート」の意欲喪失群や不満足群に属する児童は、年間を通して少なく、「話すこと・聞くこと」を楽しんでいる児童が多い。「ペアトークキングで時間いっぱい友達と話せた」と肯定的に評価する児童が91%、教師が98%と高い。
- ・ 過去問題を用いた復習をすることで、児童はWeb問題に安心して取り組めた。
定着が十分ではない問題を児童も教師も自覚し、意識して補充学習に努めた。

②課題

- ・ 「話すこと・聞くこと評価シート」を活用し、聞き方指導を継続し、聞く姿勢や態度の向上をより図る。
- ・ Web問題を含め、補充学習をするための時間と指導者の確保を図りたい。